

授業科目名	保育内容表現 I	担当教員名	河野 佑美
必修/選択	必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格)	開講学年・学期	2年 通年(年間開講数 1講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	2単位
施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1/2)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
		特記事項	※「保育内容演習」の指導内容を含む
授業の到達目標	<p>年齢に応じた幼児の音楽表現とその活動についての考え方を理解し、実践的な体験を通して感じる心を養い、音楽表現活動の指導法を学ぶ。/器楽合奏を通して簡易楽器の理解・演奏技術を習得する。</p> <p>1-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容:幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想:幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>(2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>(3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>(4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>		
授業の概要	幼児の表現をいかに導き、受け止められる保育士になるために、保育者自身の音楽表現力を養う。楽器の正しい演奏法、効果的な指導法を身に付ける。		
テキスト	「新・保育内容シリーズ 音楽表現」三森桂子著、「保育内容表現論」名須川知子・高橋敏之著、自主プリント		
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)、新・保育内容シリーズ 音楽表現 三森桂子著		
成績評価の方法	内容の知識理解:定期試験(実技試験)60% 学習への興味関心:学習への参加意欲、提出物 20%、活用する技術:表現、発表 20%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	幼児教育における5領域「表現」の内容とねらいを知る 世界の幼児教育 オルフの幼児教育①オルフ楽器、五音音階	(1)-①,(1)-②,(1)-③, (1)-④	
第2回	年齢別表現活動について 幼児期の音域・声域 歌唱指導の注意点 世界の幼児教育 オルフの幼児教育②身体、声を使った即興リズム遊び—リズムパターンの作成—	(1)-②,(2)-①	
第3回	幼児歌曲を用いた歌遊びと指導案の書き方と効果的な指導法—題材、ねらい、導入を中心に— 世界の幼児教育 オルフの幼児教育③身体、声を使った即興リズム遊び—母国の言葉とリズムの融合—	(1)-②,(2)-③,(2)-⑤	
第4回	幼児歌曲を用いた歌遊びと指導案の創作—オノマトへの効果、展開方法を中心に— 身体、声を使った遊び ボディーパーカッション① 身体の部位の音の違いを知る。基本的な動きを知る 簡易楽器の種類と構造 鍵盤ハーモニカの正しい演奏方法の理解と習得	(2)-①,(2)-③	
第5回	幼児歌曲を用いた歌遊びと指導案の創作—幼児に分かりやす興味を引き出す指導方法を中心に— 身体、声を使った即興リズム遊び ボディーパーカッション② グループでリズムセッション 簡易楽器の種類と構造 鍵盤ハーモニカ 童謡の演奏を中心に	(2)-①,(2)-③	
第6回	幼児歌曲を用いた歌遊びの発表と振り返り 歌を通じた表現活動の可能性についてのまとめ 楽器を使った表現活動 楽器の役割 リズム楽器と旋律楽器 小太鼓の楽譜と奏法の理解	(2)-①,(2)-①②,(2)- ③,(2)-④,(2)-⑤	
第7回	楽器を使った表現活動 小太鼓基礎練習 四分音符、八分音符中心 鍵盤ハーモニカ 童謡のレパートリーを増やす 八長調中心に	(2)-①	
第8回	楽器を使った表現活動 小太鼓基礎練習 付点リズム、十六分音符中心 鍵盤ハーモニカ 童謡のレパートリーを増やす へ長調・ト長調中心に		
第9回	模擬保育(器楽演奏『山の音楽家』を用いて)—年齢別対象の楽器と合奏曲の選曲、指導上の留意点を知る	(2)-③	
第10回	模擬保育(器楽演奏『山の音楽家』を用いて)—導入を考える。幼児の興味を引き出す楽器紹介や分かり易い演奏方法を考える。指導案の作成。	(2)-③,(2)-④	
第11回	模擬保育(器楽演奏『山の音楽家』を用いて)—展開を考える。曲に合わせる、楽器ごとの音色の違いを聞きとれるよう考える。導入から展開の流れを練習し、指導案を完成させる。	(2)-③,(2)-④	
第12回	模擬保育(器楽演奏『山の音楽家』を用いて)—発表と振り返り。	(2)-④	

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第13回	器楽合奏—簡単なクラシックを中心に—パート分け 楽譜配布 パート練習でリズム確認	
第14回	器楽合奏—簡単なクラシックを中心に—全体を通して主旋律を理解する 発想記号を確認し仕上げる 実技試験課題の練習 正しい奏法、リズムの確認	(1)-②
第15回	楽器を使った表現活動に必要な保育士の知識と技術についてのまとめ	(1)-②,(2)-④
定期試験	実技試験	
第16回	器楽合奏—簡単な童謡曲やマーチを題材に—パート決め、パート練習 全体を通して各楽器の役割を考える 楽しく演奏するためにはどのような声掛けが必要か	(1)-②,(2)-①
第17回	器楽合奏—簡単な童謡曲やマーチを題材に—パート練習で演奏技術を高める 発想記号の確認 全体を通して旋律と伴奏のバランスを考える	(1)-②,(2)-①
第18回	器楽合奏—簡単な童謡曲やマーチを題材に—仕上げ 幼児の認識・思考、動きを視野に入れ楽しく演奏するために必要な指導方法のまとめ	(1)-②,(2)-①
第19回	器楽合奏—複雑なリズムの作品に取り組み—付点リズムやサンバのリズムに慣れる パート決め、パート練習でリズム確認	
第20回	器楽合奏—複雑なリズムの作品に取り組み—パート練習で各楽器のリズムを揃える。全体を通し、リズムの正確さを徹底する	
第21回	器楽合奏—複雑なリズムの作品に取り組み—仕上げ 複雑なリズムを幼児に分かり易く指導する方法を探る	
第22回	器楽合奏—校歌、生活発表会で演奏されている曲を中心に—パート決め、楽譜配布	
第23回	器楽合奏—校歌、生活発表会で演奏されている曲を中心に—パート練習でリズム確認。全体を通して流れを把握する 発想記号の確認と表現	
第24回	器楽合奏—校歌、生活発表会で演奏されている曲を中心に—仕上げ 聴衆により感動を与えるために必要な表現方法、舞台の使い方を探る。ダイナミクスを意識する	
第25回	グループ課題 童謡の合奏編曲—グループ決め、選曲。 情報機器・教材の活用法を知る—パソコンでの譜面作成と視聴の体験。	(2)-②
第26回	グループ課題 童謡の合奏編曲—前奏の作成、イメージを全員そろえる 楽器ごとの譜面の作成 情報機器・教材の活用法—演奏を録画し、情報機器に繋いで鑑賞する。	(2)-②
第27回	グループ課題 童謡の合奏編曲—全体を作る、様々なアレンジ方法を知る、楽譜を完成させる	(2)-②
第28回	グループ課題 童謡の合奏編曲—仕上げる リハーサルを行い、司会や入退場の流れを把握	(2)-②,(2)-④
第29回	グループ課題 童謡の合奏編曲—発表会 演奏と鑑賞、振り返り 編曲の楽しさ、アレンジの幅広さを知る 幼児教育における評価の考え方を理解する	(1)-③,(2)-②,(2)-④, (2)-⑤
第30回	手本となる正しい演奏、楽しく演奏させる指導と大切さ、楽器を通じた自己表現の可能性のまとめ	(2)-④,(2)-⑤
定期試験	実技試験	